

テリーブラウンさんからの手紙

- ◆ 出典：国際医療センター
- ◆ 発表日：2009 年 10 月 09 日
- ◆ 翻訳：国際医療センター
- ◆ 訳文発表：2010 年 01 月 15 日

わたしはテリーブラウンと申します。アメリカ人ですが台湾で三年ぐらい住んでいました。2009 年 1 月、わたしは検査で卵巣がんに罹っていることがわかりました。タイと香港で超音波検査を受けましたところ、卵巣がんの第三期であることを判明しました。よく考えた上、わたしは台湾で治療を受けることにしました。なぜかという、主人は去年台大病院で心臓ステント手術を受けました。その時、主人もわたしも大変よく面倒を見て下さいました。

2009 年 2 月 10 日、わたしは手術を受けました。手術の担当医師は黄思誠先生でした。彼は技術抜群でとても親切です。国際医療センターの王秀華看護師も、わたしの要望に精を尽くしてできるだけ応えようとしてました。ほかの方も英語で、或いは通訳を通して、わたしの話を真剣にお聞き、親切に伝えてくれました。入院の八日間、わたしは一切不便も感じなく、楽しく過ごしました。

術後のリハビリも順調でした。その後、会社方針の都合で、私はアメリカで化学療法を受け続けることになりました。アメリカの腫瘍科医師は、わたしの受けた手術成果に対して、高く評価しました。特に術後、腫瘍マーカーが 200 から 100 へと下がり、また一回目の化学治療を受けたあと、なんと 8 に急減しました。まさに医師も讃えずにはいられないすばらしい治療効果でした。

わたしは三週間ごとに Taxol と Carboplatin の化学治療を受け、6 月にすべての治療が終了、一ヵ月後また PET 検査を受ける予定です。今回治療が順調に施せ、再発する確率が 10~15%しかないのは、その手柄のひとつは、台大病院のおかげでした。

化学療法を始めた頃、私は病院からもらった吐き気止めの薬を飲んでいたので、気持ち悪く感じたことが全然ありませんでしたが、筋肉や骨、関節に激痛を感じました。そ

の後、医者は私に白血球の増加を促進する Neulasta を注射しましたが、副作用が激しいため気分が悪くなりました。特に化学療法で私はアメリカで「chemo brain」とよばれる化学療法に起因する疲労および認識機能障害が起こり、物事を考えることができませんでした。食欲は以前と変わらずにあり、体重を維持することはできましたが、しばしば貧血を起こし疲れやすく、1日に何度もほてったりしていました。これらの症状は特に夜

にひどくなりましたが、ただ幸いなことに、これ以上重症な副作用は無かったのでした。

台大病院でもアメリカの病院でも、私は大変よく面倒を見てもらいました。言うまでもない、神さまは私が元気になれる最大の原動力、神さまは私の力の源、私の保護者、私の治療者、そして、私の平安でした。

テリーブラウン より

2009 年 5 月 25 日